



「もみの木」から 地域生活を考える

社会福祉法人 川崎聖風福祉会

桜の風

もみの木所長 小林 勇

川崎聖風福祉社会が担う主な事業とは (もみの木)

1. 宿泊型自立訓練・・・20名
2. 自立(生活)訓練・・・24名
3. 短期入所(ショートステイ)・・・5名
4. 体験宿泊(川崎市単独事業)・・・2名

もみの木の 自立訓練とは

・宿泊型自立訓練

入院生活もしくは家族との同居生活をしていた方が、「もみの木」で疑似的な一人暮らしの経験を一時的におこなう中間施設です。

・自立(生活)訓練

地域での生活に必要な要素を「集団プログラム」や「個別支援」でトレーニングします。

もみの木の 自立訓練の目的は

もみの木の
最大の目的は！

アパートでの単身生活
グループホームでの生活 など

→長く地域生活が送れること！

もみの木(宿泊型自立訓練)の視点

- ・生活の中で出来ている事の強化
- ・苦手なことについては在宅サービスの検討
- ・実際のサービス利用を通しての関係性の確認

＊ 利用期間は1年間が基本

基本期間の標準例

・地域移行への流れ

①入所～3ヶ月

- ・生活リズム、金銭管理、服薬管理、家事能力 などのアセスメント
- ・集団プログラム、個別支援の実施

②4ヶ月～6ヶ月

- ・必要に応じて①の内容 と 関係機関調整
- ・地域の日中活動先の見学同行・体験利用

③7ヶ月～9ヶ月

- ・必要に応じて①の内容
- ・日中活動先への定期利用の固定化
- * GHの情報提供と見学同行

④10ヶ月～12ヶ月

- 賃貸アパートなどの物件見学同行・家族調整・関係機関調整
- GH申込み・体験利用

不安がいっぱい真面目なAさん①

概要

入寮に至る経緯（入所目的）

高齢の母親と同居されていたが、母親の体調が悪くなり単身生活を送れるようになるために生活訓練を受けたい！

不安がいっぱい真面目なAさん②

もみの木寮での支援

平成24年10月入寮

- ・出納帳による金銭管理トレーニングを開始
→月45000円の自己管理が可能
- ・自宅では週1回の入浴回数であったが、スケジュール化により
→毎日の入浴で固定
- * 自炊については他の事が気になると手につかなくなり、調子を崩してしまう
→お弁当や食パンを利用しての自己調達。
- * 洗濯や布団干しはお天気の自己判断が難しく、職員の声かけが必要。

不安がいっぱい真面目なAさん③

桜の風 もみの木からの支援

平成25年4月 引継

- ・本人の希望 「食事のレパートリーを増やしたい」
→スーパーのお惣菜を利用

「バランスのよい食生活とは」を考える
→野菜を食べることとした

- ・5月~
地域活動支援センター 複数回の同行支援・・・地域移行後の日中活動先として

- ・7月~
GH見学 → 落選
→本人、関係機関などと話し合いを行いアパート生活を検討する

不安がいっぱい真面目なAさん④

桜の風 もみの木からの支援

・9月～

携帯電話の契約
アパート契約

・10月～

アパートで泊まる練習を開始(1泊2日)し、徐々に泊数と回数を増加する。

* アパートの近所のスーパーはどこに何が置いてあるのかわからない。

→本人がアパート泊中に、近所のスーパーの買い物同行

→必要物品の買い出し、家具の組み立て

:副産物として、他者が自分の居室に入ることへの抵抗感の減少

アパート生活での問題を他者に助けを求めることができたこと

* もみの木で救急搬送されることが発生

本人のアパートでの一人暮らしに対する不安感が増大

→本人、関係機関とも話し合い「本人のペースでゆっくりすすめていくこと」とした



不安がいっぱい真面目なAさん⑤

桜の風 もみの木からの支援

- ・アパートでの宿泊練習期間:5か月を経て
平成26年3月 退所
退所時の在宅サービスとして

月	火	水	木	金	土	日
朝食自己調達				もみの木 ショート ステイ	朝食自己調達	
地活	H/H 昼食 自己	地活	もみの木 ショート ステイ		昼食自己調達	
夕食自己調達					夕食自己調達	

GHを目指していたBさん①

概要

入寮に至る経緯(入所目的)

病状も安定し、物事に関して意欲が向上しており、GHへの入居を目標に日常生活のレベルを向上していく。

GHを目指していたBさん②

もみの木寮での支援

平成23年1月 入寮

* 入寮2か月後、体調が不安定となり3ヶ月間、再入院となる。

- ・生活習慣の確立を目指して
→毎日の髭剃り、週3回の入浴、1日分の服薬自己管理
- ・金銭管理の取り組み
→週2回の出金(お小遣い)での自己管理

GHを目指していたBさん③

桜の風 もみの木での支援

平成25年4月 引継

「環境の変化に慣れる事」を当面の目標とする

・4月～

集団プログラム、日常的な買い物、掃除当番、週3回の入浴の実施

・5月～

幻聴の出現。行動修正が出来ない状態

プログラムの欠席

臨時受診同行 → 頓服処方

ご家族との面接 → 入所したまま経過を見ていくこととなる

・7月～

活動性の低下が顕著となる

日中も自室で寝て過ごすことがほとんどとなり、声かけに対しても反応が薄い

受診同行 → 服薬調整をして様子を見ることとなる



GHを目指していたBさん④

桜の風 もみの木での支援

・8月～

活動性は改善傾向

過飲水の行動が頻発

ハイテンションと落ち込みの繰り返し

受診同行(ご家族同伴)

→主治医から入院の許可

→ご本人「入院がいい。病院がいい」

→ご家族「本人は自分で生活を考えて組み立てていくのは望んでいない」

・在宅生活への意欲消失

退院の見込みがつかない

→自立訓練の終了となる

桜の風(もみの木)の初年度実績

平成25年度(初年度)実績

- ・入所者総数・・・もみの木寮から引継 8名 + 14名
(計 22名)
- ・退所者総数・・・7名
〈内訳〉
 - アパート生活 ……2名
 - グループホーム……2名
 - 再入院 ……3名

まとめ

- 地域移行への必須項目
 - * 本人の意欲を引き出す
 - * 本人のモチベーション維持

- 地域定着としてのショートステイ機能
 - * 段階的地域移行機能
 - 本人へのレスパイト
 - 生活相談

 - * 課題
 - ショートステイはいつまで実施?